

いの町史編さん室だより(No.3)

広報10月号内に掲載の「いの町史編さん室だより」はご覧になっていただけましたでしょうか？ 平成26年の町の合併10周年を目標に新しい「いの町史」の編さんを進めている町史編さん室では、町民の皆さんが参加する町史づくりを目指しています。つきましては、町史編さんに役立つと思われる資料・写真などがあれば、ご連絡ください。

それでは、今月のためになるちょっと面白い話をご覧ください。

編さん室からのちょっと面白い話

自然環境担当 山岡 遵

「仁淀川の石はどうしてきれいなのか？」

皆さんは、仁淀川の石を拾って眺めたことがありますか？ 川原には、色、形、模様、硬さ、重さの違う石がいろいろあることが分かります。最近仁淀川の水のブルーが注目を浴びていますが、航空機の機内誌では、「仁淀川のたからもの」として仁淀川の石が紹介されています。

全国的にも仁淀川の石はきれいなのです。この仁淀川の石が海へ下り、桂浜の五色石になるのです。

五色石はチャートという石です。チャートはとても硬い石なので、昔は火打ち石として使われていました。チャートは暖かい海に棲む放散虫という生物の遺骸が堆積してできた堆積岩です。

電子顕微鏡で調べると、この放散虫は2億年前の中生代ジュラ紀の化石だということが分かりました。このチャートの地層は、フィリピン海プレートに乗って、南の海からやって来て、日本列島の縁にぶつかって取り込まれたと考えられています。こう考えると、今、手にしているチャートは1億年もの長い年月をかけて遠い南の海からやって来たことになりま。驚きです。

チャートの色は、赤、オレンジ、黄色、茶色、灰色、黒、緑などと多様です。なぜいろいろな色があるのでしょうか？ 基本的には、微量の元素によっていろいろな色が出ているということです。放散虫の種類とは無関係です。

海水は酸化的なので、ゆっくり堆積したチャートは酸化鉄を含みやすく、黄色から赤色の暖色系に、早く堆積したもの

は硫化鉄や炭素化合物を含みやすく、灰色から黒色などの暗色系になります。また緑色のものは緑色の粘土鉱物を含むためであることがあります。

ただし、仁淀川のどの川原の石もきれいというわけ

ではありません。仁淀川は、石鎚山を源流として14の支流を持ち、全町124kmで太平洋に流れ込んでいます。高知県の地質は東西に延び、四万十帯、秩父帯、三波川帯の三つの地層からなり、仁淀川は、この地層を南北に流れています。特に秩父帯は、いろいろな地質が複雑に入り込んでいます。支流も含め仁淀川は、これらの弱い地質を削って流れをつくっているのです。削られたいろいろな種類の石が運ばれ、下流域の河原に集まっているのです。だからいの町を流れる仁淀川の川原の石はきれいなのです。

特に、チャートはガラス質なので、水に浸けるときれいが引き立ちます。是非、川原の石を拾って試してみてくださいが



水に浸けた川原の石

情報提供のお願い

1 残しておきたい集落名を教えてください

今までに廃屋、又は、住民が他の集落などへ移転し、常時住んでいる人がなくなった集落が近隣にあれば集落名を教えてください。現状を把握するためご協力ください。

2 五輪塔のある場所を教えてください

空・風・火・水・地からなる五輪塔は、その形態や材質により時代や石の産地を知る手掛かりになります。波川・大内地区には、波川玄蕃の関連の五輪塔が多く見られます。町内の他地域にも特徴ある五輪塔があると思われま。五輪塔のある場所をご存じの方はご一報ください。



広報9月号で「サンショウウオの生息情報」について情報提供のお願いをしておりましたところ、数件の生息情報をお寄せいただきました。貴重な情報をありがとうございました。まだまだ集めておりますので心当たりのある方は、是非、町史編さん室までご連絡をお願いします。

いろいろな情報をお待ちしております。



問い合わせ・連絡先

いの町教育委員会社会教育課 町史編さん室(内線31)

☎ 893-2012 FAX 893-2013